

より快適できれいな暮らしに貢献したい

だからタカラは環境問題に取り組めます

経営企画室
マネージャー
武知 大介

2024 年度の振り返り

2024年度は、CO₂排出量を削減傾向に向けるべく「CO₂排出量を減らすこと」を大きな目標として取り組みました。その結果、前年より約3,000トン減少し、合計で51,504トンとなりました。これは、当初の目標であった56,000トンを上回る成果です。この成果の背景には、いくつかの工夫があります。まず、工場で使う電気や燃料の量を減らすために、省エネ設備の導入や使い方の見直しを進めました。また、非化石証書の調達も行いました。さらに、社員一人ひとりが環境への意識を高めるよう、社内での啓発活動も行いました。これらの取り組みが積み重なり、目に見える成果につながったと考えています。

2025 年度の取り組み

2025年度は、CO₂排出量を2020年度比で約9.5%削減することを目標（CO₂排出量目標52,000トン）に掲げています。これは、環境への負荷を減らし、持続可能な社会づくりに貢献するための大切なステップです。この目標に向けて、今年度は次の2つの成果を目指して取り組みます。

1. 営業拠点での電力使用によるCO₂排出のゼロ化

環境にやさしい電力への切り替えや、非化石証書の活用を通じて、営業拠点での電力使用によるCO₂排出を実質ゼロにすることを目指します。

2. 省エネ投資計画の拡大

2024年度に実施した工場の省エネ診断結果をもとに、エネルギーの使い方を見直し、効率の良い設備への投資を進めます。これにより、長期的なエネルギー使用量の削減につなげます。

また、これらの取り組みを進めるために、社内の体制も強化しています。環境分科会を中心に、各部門が連携して進捗を管理し、効果を検証しながら、確実に目標達成を目指します。

CO₂削減目標2026年度 CO₂排出量削減目標2020年度比 **15%**削減2030年度 CO₂排出量削減目標2020年度比 **30%**削減事業活動における
CO₂排出量削減に向けた取り組み

生産拠点における省エネ設備の導入、燃料転換

省エネ型ガスバーナーで、
ガス使用量及びCO₂排出量低減電気ボイラーからガスボイラー
への切り替えを推進各事務所における
省エネ設備等の導入照明のLED化や
高効率な空調設備の導入

TCFDに基づく情報開示

ガバナンス／リスク管理

気候変動を中心とした環境問題に関するリスク・機会の把握・分析、課題や対策の検討は、代表取締役社長が委員長を務めるサステナビリティ委員会の下部組織である「環境分科会」が担っています。当分科会は経営企画室長が分科会長を務め、年4回以上開催し、TCFD提言への対応および戦略と指標の進捗、経営計画との整合を審議し、その結果をサステナビリティ委員会へ年2回以上答申します。またサステナビリティ委員会を通じて、取締役会へ答申・報告します。当分科会の事務局である経営企画室は、分科会の運営のほか、各部門と連携しTCFD提言への対応推進・進捗管理を行います。また、シナリオ分析を通じた気候変動のリスクと機会の把握及び対応策の検討を行い、環境分科会へ提案・報告します。

戦略

■移行リスク(1.5℃未満シナリオ)

分類	シナリオ	リスク	影響度	機会	影響度
政策や法規制	炭素税課税の導入	資材やエネルギーの調達コストが増加し、製造コスト、販管費が増加	大	—	—
	森林環境規制等の強化	木質資材の調達難度、調達コストが増加し、製造コストが増加	大	—	—
市場と技術	石油化学、鉄鋼業界における脱炭素に向けたダイベストメントや事業ポートフォリオの見直しが進展	鋼材や樹脂資材、木質資材の調達難度、調達コストが増加し、製造コストが増加	大	—	—
	得意先・消費者の行動変化 節水・省エネ性・継続使用性の高い商品の選好	—	—	お手入れが容易で、長く使い続けられるホーロー製品等の存在感が高まる	中
	得意先の行動変化 製造工程におけるGHG排出量の多い製品の需要が減少するリスクがある	製造工程におけるGHG排出量の多い製品の需要が減少するリスクがある	中	木材製品の需要が増加	中

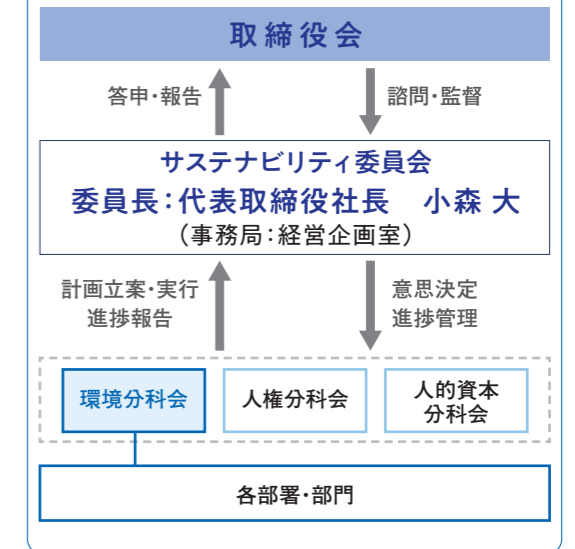
■物理リスク(4℃シナリオ)

分類	シナリオ	リスク	影響度	機会	影響度
慢性的	気温上昇で熱中症リスクが上昇	作業環境は、直射日光下ではないが、一定程度の影響は受ける	中	—	—
急性的	異常気象の激甚化・頻度が増加	被災による操業停止災害によるサプライチェーン寸断	小	災害リスクの高まりによって、強靱な供給体制のある存在感が高まる(2011年の震災時にも継続供給を実現)	大

■環境問題に関して取り組んでいる主な事項

目的	対応策
GHG排出量の削減	太陽光パネルの設置、モーダルシフトの推進(エコシップ、鉄道利用を促進)
気象災害に対するレジリエンスの強化	製造、物流拠点の分散化や在庫の確保といったBCPへの継続的な取り組みの推進
梱包資材の省資源化	梱包を必要最低限に切り替えることで、省資源、ごみの削減、輸送・開梱作業の効率化を推進

ガバナンス体制図



その他の取り組み

太陽光発電でよりクリーンな
エネルギー利用を

全国の支社・支店・工場・物流センター、全15カ所の社屋に太陽光発電設備を設置し、環境および省エネルギーに配慮しています。

【設置社屋】

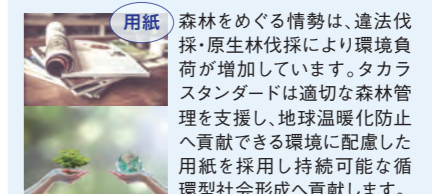
本社 大阪支社 横浜支店 北関東支社
東関東支社 宇都宮営業所 京都支店
神戸支店 広島支店 四国支店
大阪工場 和歌山工場 福岡工場
東北物流センター 福岡物流センター

植物由来素材で
リサイクル可能なタカラの制服

着用する制服のジャケット、パンツ、スカート、九分袖トップス裏地には、植物由来ポリエステル、ブラウス生地緯糸には再生ポリエステルを使用するなど環境に配慮した素材を使用しています。また不要になった制服は、回収され、再度制服に加工などを行い、二次製品に変えて再利用することができます。

カタログでも
地球環境保護を徹底

お客さまにお渡しするカタログでも「環境に配慮した用紙」「植物油インキ」を採用し地球環境保護に貢献します。



カタログなどに使用されるインキを「植物油インキ」などの再生産可能なインキに変更しています。石油系溶剤に比べてVOCの排出が少なく、環境負荷低減に貢献します。